

不二製油グループ本社株式会社 ブラマー構造改革 主な質疑応答

・日時	2024年3月25日(月) 10:00~11:00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	田中 寛之
	上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. 買収当時と比較し、米国のチョコレートマーケットの市場環境や競争環境の変化、また、今後のマーケット環境の見通しは。

A. 足元においては、金利上昇の影響もあり一時的に需要が低下しているが、2019年の買収以降、米国のチョコレート市場は想定通り拡大しており、長期的な観点においても、米国の経済成長力や人口増加などの面から、チョコレート市場の成長性は継続すると考えている。特に、低糖チョコレートやハイプロテインチョコレートといった健康訴求の製品の需要拡大がより一層期待される。

競争環境においては、カカオ加工製品では、カカオ豆原産地での加工が増加する動きが見られるが、チョコレート製品に関しては大きな競争環境の変化はない。

Q. シカゴ工場の閉鎖により、2024年度に一過性の損益などは発生するか。

A. シカゴ工場は2024年5月に閉鎖を予定しているが、2024年1月23日に発表した有形固定資産の減損の際に、今回の構造改革の一部を織り込んでおり、シカゴ工場の閉鎖に伴う多額の損益計上は想定していない。

Q. 構造改革のシカゴ工場の閉鎖及びカカオ加工事業の適正化の効果の顕在化は、いつ頃を想定しているか。

A. シカゴ工場の閉鎖については、2024年度中に大幅な固定費の削減による業績改善効果が現れると考えている。カカオ加工事業の適正化については、2024年度から2025年度にかけてカカオ在庫の適正化が進むことによる業績改善効果が現れると考えている。

Q. カカオ加工製品の外販割合は将来的にゼロになるのか。

A. 外販の一部は継続するが、カカオ加工製品の多くを自社製造のチョコレート原料として活用する方針に変更し、その比率を高めていく。

Q. キャンベルフォード工場へ大型投資を実施する理由は。

A. 工場の生産性、従業員の定着度の観点から、キャンベルフォード工場に大型投資を決定した。

工場の生産性においては、不二製油グループの工場生産性指標で比較した際に、キャンベルフォード工場は、不二製油グループ平均値を上回るなど、生産性は高水準で維持されている。また、従業員の定着度については、キャンベルフォード工場は、従業員の退職率が低く、その結果、従業員の熟練度や製品の良品率も高く、1単位あたりの製造コストが低いことから、今後も安定した稼働が実現可能と考え、今回大型投資を決定した。

Q. 業務用チョコレート事業の今後の成長性及び、ブラマーの今後の位置づけはどのようになると考えているのか。

A. 業務用チョコレート事業は、2023 年度にブラジルでの新工場の稼働開始や、欧州・豪州での生産能力の拡張を行っており、堅調な販売が続いている。足元では、カカオ価格の高騰による懸念はあるものの、中長期的には、世界での人口増加や経済成長を背景にチョコレートの消費拡大が見込まれており、当社業務用チョコレート事業においても継続した成長は可能と考えている。

不二製油グループは、油脂技術を活用したコンパウンドチョコレートや高い生産性が強みであり、こうしたノウハウをブラマーに投入し構造改革を成し遂げることで、ブラマーを業務用チョコレート事業の中核となる会社に成長させる。

以上